

久城先生を送る言葉

鳥海光弘(地質学専攻)

久城先生は昭和37年から約33年に渡り地質学教室を指導してこられました。あらためて感謝の念にたえません。久城先生は1962年に東京大学理学部助手になられ、1970年に同助教授、1974年に同教授に昇任され地質学第一講座を担当されてきました。この間カーネギー地球物理学研究所において研究員として長期にわたり研究に従事されました。久城先生は岩石学、とくに実験岩石学分野で数多くの重大な業績をあげられました。とくに1960年代は高圧力(地球の上部マントル条件)でのマグマの化学組成の変化、1970年代は、 H_2O を含む時のマントルでのマグマの化学組成について実験方法の開発と新しい結果にもとづき、岩石学や地球科学に新しい局面を切り開きました。さらに1980年代に入り、突然マグマの超高圧における密度、および粘性率の測定、マグマの統計力学と相律の一般論に研究が及び、過去物理的に予想できなかった、圧力増加によるマグマの密度と結晶の密度の逆転、および、圧力増加にともなうマグマの粘性率の大幅な減少を次々と明らかにし、また相律の変化とイオン種の規則的な関係を示し、世界に衝撃を与えました。

私たちが深い感銘を受けたのは2つあります。ひとつにはこのようにつぎからつぎへと新しい分野を切り開いてたことですが、もうひとつは、久城先生が新しい実験方法を考えだし、また全く新しい実験事実を出したとき興奮して同僚の教官だけでなく、まだよくわからないであろう学生にも興奮して話し出すのです。我々はしたがって、科学研究というのがどんなにか楽しいものであるということを実感する事が出来たのです。もっともその後、実際に書くと修羅場であるということはいくぶんわかったのですが。このような状況は久城

先生門下の学生に極めて強く痕跡を残し、後に巣立った研究者は現在多くの国内外の大学で第一線で活躍しておりますが、彼らは一様に研究を極めて楽しいものと思っております。また、共通して極めて議論好きで、時にはうるさすぎるようなわけです。

久城先生は現在岡山大学地球内部研究センターにいらっしゃいます。1994年10月から勤務されております。本来この5年間の忙しさからようやく科学に戻れるはずであり、先生も移れることの喜びのみ先行していたのではないのでしょうか。たしかに現在は科学に浸れているようで、恐ろしいことに毎日新しい世界を覗いているようです。恐ろしいというのは再びあのすさまじい発見ラッシュが彼によって行われるのではないかということです。彼はどうぞやら科学という玩具を持った永遠の子どもようです。やはり、われわれはもう一度彼によって地球惑星科学が大きく変化する事を望んでいるようです。

最後に先生のご健康を祈ります。先生有り難うございました。